

松本市市民活動

サポートセンター通信

NO. 2 0

発行：松本市市民活動サポートセンター

〒390-0874 松本市大手 3-8-13

松本市役所大手事務所 2 階

TEL/FAX：0 2 6 3 - 8 8 - 2 9 8 8

E-mail：support-center@support-center.jp

URL：http://www.support-center.jp



“まつもとネットワーク大作戦！！”

大いに盛り上がる！ サポートセンター

3月15日(日)市民活動サポートセンターで新まつもと物語プロジェクトと、松本市協働推進担当との協働開催による「まつもとネットワーク大作戦」が開催された。市民活動やボランティア活動を行なっている若者から高齢者まで70名近くが「ネットワークづくり」に参加した。



オープニングアクトとして信州大学の山田洋祐さんが、長野市などから駆けつけてくれた仲間と共にヒップホップを披露。ラップ

を通して「今やるしかない」といった熱いメッセージを投げ掛けた。

続くトークセッションでは、新まつもと物語プロジェクトの林勇次会長がコーディネーターを務め、ネットワークづくりやサポートセンターの有効活用をテーマに話し合いが行なわれた。

まず、市内のゴミ拾い活動をしている団体や政治経済の勉強会を開いている団体など9つの団体代表者が自身の活動紹介をした。活動を通して「人が足りない」「運営資金が足りない」といった課題に直面している団体が多く、問題が浮き彫りになると共に参加者での共有が図られた。

また、市民活動サポートセンターの有効活用についての意見も出された。参加者からは「各課をとりまとめ、市民のために一本化した窓口をサポートセンターで実現して欲しい」といった意見が出され、今後の運営方法の参考にもなった。

まちづくり、ネットワークづくりに関しては「何をすることよりも、まず第一歩として集まることが大切ではないか？」といった意見もあり、サポートセンターを中心に「集まる場や機会」を増やしていくことの必要性を感じた。



イベントの最後は「食の松本ブランド構築」を目指したワークショップが、フードコーディネーター波多腰太さん

の進行で行なわれた。松本産の米を城下町湧水群の水で炊き、松本産の卵をかけたTKG(たまごかけごはん)に、様々なトッピングをして食べようという試みだ。具材はねぎ味噌、蕎麦の実、バジル等で、各自好みのトッピングを楽しんだ。

その後7・8人のグループに分かれ「私のお薦めTKG」について話し合い、全体発表をした。「歯を大切に！」というテーマでスルメを使ったTKGや「醤油でなく麺つゆがお薦め」など



様々な感想が出され、松本ブランドを考えるきっかけともなった。



波多腰さんは「今後は具体的なメニューを考える2回目のワークショップを計画しています。皆さんもぜひご参加を！」と呼びかけた。

ボランティア活動サークル「VOLNET」に所属している信州大学1年の長井麻矢さんは「学内では知り合えない人達と知り合うことが出来てよかった。今後も大学外のつながりを求めて活動を行なっていきたい」と感想を話してくれた。

今回のイベントは、まちづくりにおけるネットワークづくりのきっかけになったと同時に、サ



ポートセンターの今後を考える上で非常に有意義であった。

(新まつもと物語 市民記者 望月)

このコーナーでは、サポートセンターに登録されている市民団体の方々をご紹介させていただいています。今回お話をうかがったのは、「生存を支える会（仮）」と「信州八チドリねっと湧〜く」の両団体です。

生存を支える会（仮）

野宿生活をしている人達や、不当解雇などで生活に困窮している人達のサポート活動をされているのが「生存を支える会（仮）」だ。会の名前に（仮）とあるのは、早期にサポートが要らなくなる程に社会情勢が好転し、解散できる日が来ることを目指していることを表している。代表の八木航さんにお話をうかがった。

通勤中よく見かける野宿生活者が徐々に健康を失って行き、何かお手伝い出来る事がないかと声を掛けてみたのが設立のきっかけのこと。住所を失った人は、公的援助を受けられなくなる。再び住所を得るには援助が必要だが、住所がない限り援助は受けられない、と言うジレンマに陥る。最も必要な人達にこそ援助が与えられない。そこで、何度も粘り強く交渉を重ね、譲歩を引き出す。その一方で夜間に行き場のない人達を見つけては声を掛ける活動もしている。体力的にも大きな負担が必要だ。

「貧困は連鎖する」との言葉には驚かされた。例えば派遣社員は元々収入が低く抑えられ

HP : <http://nomasters.com/seizon/>

E-mail : seizon@nomasters.com

ている上、相場より高い寮費を給料から天引きされ貯金すらおぼつかない。住居を借りる原資もできず、次の職場も寮のある派遣社員を選ばざるを得なくなる。これではいつまでも貧困から抜け出せない。そこで失業者等困窮者へ支援制度の紹介・労使交渉、他にも野宿生活者の生存支援、学習会の活動をしている。格差社会が目前にある現在、問題を広く知ってもらうチャンスとも言える。もし政策を掲げるとすれば、住居支援（特に連帯保証人）の問題を解決したいとのこと。貧富の差が個人の生存を脅かす程



湯浅誠氏(NPO法人自立生活サポートセンターもやい事務局長)の講演会

の「ひずみ」として明確になった場合、福祉国家としてどうあるべきか、ということを実際に考えないといけない。そんな思いを強くした。

信州八チドリねっと湧〜く

「信州八チドリねっと湧〜く」は、平和と環境保全を目指して活動を行なう市民団体である。対立のない社会を、対立のない方法で実現することを理想としている。具体的にどんな活動をされているのか、代表の望月みつよさんにお話をうかがったところ、「定まった活動方法はない」と言う。定期的なミーティングや講演会、イベント等を行なう他、それぞれの活動はあくまで各メンバーの自主活動が主体となる。メンバーは元々NPO法人ネットワーク「地球村」（高木善之代表）のメンバーとして各々が独自の活動をしていた。例えば、森林保護のための「マイ箸運動」、しつらえた遊び場ではなく子ども達自身が工夫して遊びを考え出すことのできる「プレーパーク」、憲法9条の理念による平和運動など、多様な活動を行なっている。それらをネットワークで繋いでいるのだ。

望月さんは、美容室を営むうち、その営業活動が自然環境に負担を掛け、自身の健康にも悪い影響を与えている事実と直面した。そこで環境に関する講演会を積極的に聞き活動を思い立

HP : http://www.geocities.jp/shinshu_hachidorinet

E-mail : shinshu_hachidorinet@yahoo.co.jp

った。勉強を続けるうち諏訪湖や琵琶湖の汚染問題に触れ、合成界面活性剤等の化学物質が分解せず自然界に長く留まることを危惧した。仕事で使う薬剤を環境負荷の低いものに変化させ、小学校などで講演活動を行なう。

活動の苦勞は感じないと明るく語る。9年前の設立当初より無理な活動は行なわず、マイペースを貫いてきたからだ。これからもそのスタンスは変えず現在の活動を地道に続けていくと言う。だから法人化は「全く考えていない」。

現在は平和活動に軸足を置いている。平和な国家の殆どが環境問題に注力するのと同様、平和と環境は不可分な関係にあるとの考えが言葉の端々ににじみ出る。環境と平和のどちらかが欠けても社会が成り立たないのは、日本人自らがよく知っている気がした。



講演会講師の高木善之氏と...

ボランティア活動をする時は保険に加入しましょう！



～平成 21 年度分の受付を 3 月 2 日より始めました～
受付は松本市総合社会福祉センター 5 階（松本市社会福祉協議会事務局）
又は松本市役所大手事務所 2 階（松本市市民活動サポートセンター）で行な
っています。

ボランティア活動保険

保険内容 ボランティア活動中、または活動の行き帰りの途中に起きた事故によるご自身のケガや賠償責任（他者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりなど）を補償します。ただし自動車による事故はボランティア自身のケガのみが補償の対象となります。

保険料（年間） 1 名 A：260 円、B：420 円、C：590 円（地震等の天災に対応したプランもあります）

補償期間 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

補償内容（例 A） <死亡> 1418 万円、<後遺障害> 1418 万円（限度額）、<入院> 7000 円/日、<通院> 4500 円/日、<賠償責任> 5 億円（限度額）

その他の取扱保険

ボランティア行事用保険

福祉活動などさまざまな行事における事故を補償します。



送迎サービス補償

自動車での送迎サービス中の事故による利用者のケガを補償します。

<問い合わせ> 松本市社会福祉協議会内ボランティアセンター 電話(0263)25 - 7311 FAX(0263)27 - 2239

研修参加報告「これからの公共を考える」

報告：市民生活課協働推進係 尾崎 順

過去 2 回にわたりアメリカの NPO やそれを支えるボランティアについてお話しましたが、今号では報告のまとめとして「これからのまちづくりのためには何が必要か？」について、私自身が感じたことを述べたいと思います。

「協働によるまちづくり」を目指して…

今回の研修に参加してまず感じたことは、市民との協働を進めるにあたっては、やはり市民活動の活発化と自立化が必要だということ。そのために行政は市民活動をサポートしていかなければならないが、その手段のひとつは、市民活動サポートセンターを通じた支援である。現在も講座を通じた人材・団体育成や団体間のネットワーク化を進めているが、今後も市民からのニーズ等を把握したうえでさらなる充実が必要だ。市民活動への財政的支援は、行政が直接補助金を支出するという形より、サポートセンターなどを通じて、民間の助成金情報の提供、申請書作成のサポート、助成団体への団体活動の推薦などといった形での支援に力をいれて進めていくことが大事だと思う。

また今後持続的な協働を行なっていくには、市民と行政との徹底した議論や対話を通して合意をつくりあげていく必要があると感じた。どちらかが一方的に押し付けたものは、一時的なものに終わってしまい、長くは続かない。遠回りのようにみえるかもしれないが、徹底した議論や対話を進め合意していくことが大切ではないか。そのためには、市職員はもっと積極的に現場に出て市民との信頼関係をつくっていかなければならない。

「協働」は、仕組みをつくったからすぐできるというものではない。しかし、松本では協働という言葉が生まれるずっと前から、特に地域において、市民と行政が協力して地域づくりをしてきたという歴史がある。

今後は、このような土壌を活かしながら、今までの地縁型組織に加え、NPO などのテーマ型組織やさらには企業や大学などが連携して今後の松本をつくっていく必要があるのではないか。

特に地縁型組織とテーマ型組織との連携は今後の大きな課題だが、もしお互いが協力・連携できれば、さらに魅力ある市民セクター主体のまちづくりや地域づくりができるはずだ。アメリカのように「違うことが当たり前」との考えを前提に、お互いの違うところを認め合い、連携できる道が考えられるのではないか。その連携のためには行政がつなぎ役でありコーディネイト役として機能しなくてはならない。

これからの公共は、行政だけが主体となるのではなく、様々なセクターが主体となって関わりあっていく必要がある。したがって、これからの行政の重要な役割は、コーディネイト・ファシリテイト役として各団体や各セクター間をつなげていくこと。私も含め市職員は今後同様の能力を身につけていかなければならないと感じた。（おわり）

イベント情報等をお寄せください!

センター通信やホームページにて、皆さんのイベント情報や募集情報などをご紹介します。
多くの皆さんから多くの情報をお待ちしています。

親子で楽しむ身近な自然観察会

身近な公園の自然と一緒に遊びませんか?

公園のネイチャーゲームや万華鏡づくりなど様々な感覚を使って遊ぶ簡単で楽しい、自然観察の方法を3~4つ紹介します。

《第1回》

日時: 3月28日(土) 9:30~11:30

場所: 大門原公園(塩尻総合文化センターそば)

《第2回》

日時: 4月4日(土) 13:30~15:30

場所: 歌碑公園(塩尻短歌館横)

対象: 3歳~小学校3年生くらいまでとその保護者

参加費: 2人1組2,000円(3人目以降+300円/人)

問合せ: 持続可能な松本平創造カンパニー わおん

TEL/FAX: 050-3004-2388(山田)

アースデイまつもと2009

地球を愛することをかんがえよう!

全世界で行なわれている国際環境行動日「4月22日」に参加し、地球にやさしい生活を考える日を持ちます。松本平を中心に活動する市民団体、個人、音楽家が参加して、市民交流ピクニックイベントを開催します。

日時: 4月29日(水) 10:00~15:00

場所: 松本平広域公園総合球技場「アルウィン」

入場料: 無料

問合せ: アースデイまつもと実行委員会

TEL: 090-1854-5305(立石)

サポートセンターからのお知らせ

~新年度に向けた諸手続きについて~

登録状況の変更等について

現在登録の団体情報について、「代表者が変わった」、「住所が移った」などの変更がある場合は、「登録(変更・廃止)申請書」を当センター窓口へご提出ください。(FAX、郵送でも可)

レターケースの利用について

団体の活動PR、団体間や会員間の連絡等にご利用いただけるレターケースの無料貸出を行なっています。利用を希望される団体は、お申し込みください。

なお、平成20年度に利用されている方も、改めて申込が必要となります。

申込受付期間

平成21年3月23日(月)から平成21年4月末日まで

ご利用いただける期間

平成22年3月31日まで

輝く団体、突撃レポート!!

今回は、「冒険遊び場(プレーパーク)を塩尻につくろう準備会」が開催した子どもの遊び場を考えよう!に突撃取材をしてきた!!



「冒険遊び場(プレーパーク)を塩尻につくろう準備会」で今回初めて開催したワークショップ。DVDを見て「プレーパーク」の様子を紹介したり、みんなで意見交換をしたりと、大人も夢を広げることができたワークショップだった。

発起人の堀川さんは、6歳の長男とボール遊びをしに公園へ行ったところ、遊べる公園がなかったので、自由に遊べる公園が欲しいと思い「プレーパーク」づくりを思いついたそうだ。「一人じゃできないし、お金が必要」と、当センターの助成金講座に参加した。そこで、環境教育などに取り組んでいる「わおん」の山田さん夫妻と出会い、「プレーパーク」について意気投合。できたのが「冒険遊び場(プレーパーク)を塩尻につくろう準備会」だ。今後、定期的にワークショップを開き、「プレーパーク」の輪を広げていきたいと語ってくれた。

「プレーパーク」は、自分で考え、自分の責任で自由に遊ぶ!!子どもも大人もキラキラ輝ける場所である。そんな場所がいろんな地域に広まったらいいですね。

子どもの遊び場を考えよう! Part2

日時: 3月29日(日) 13:30~16:00

場所: 塩尻総合文化センター 102号室

参加費: 無料

問合せ: 冒険遊び場(プレーパーク)を塩尻につくろう準備会

TEL: 090-5546-9254 (堀川)

編集後記

お陰さまで当センターの登録団体は、もうすぐ200団体になろうとし、利用者も年々増え続け年間16,000人を超えようとしています。また、センターで開催のイベントや講座から新しい活動も生まれ、次の活動につながっています。当センターが、身近で気軽に利用できる場所として、また、もっとたくさんの人と人、団体と団体の結び付きが深まる場所となるように、これからも皆様のご要望に添えていきたいと思っております。